

# かがわ

## 高松支局

〒760-0007 高松市中央町17の32  
 takamatu@mbx.mainichi.co.jp  
 087-833-3131 FAX 833-3135  
 【通信機関】坂出0877-46-2424 FAX 44-3830  
 観音寺0875-25-3596 FAX 23-3662  
 小豆島0879-75-2510 FAX 75-2512  
 【四国毎日広告社】087-831-8181  
 【オリコー毎日】087-836-9331  
 【掲載写真の購入は】  
 06-6346-8355=平日10~18時

FISHING  
TECHNOLOGY

釣り師の技に応える

OWNER

株式会社オーナーぱり

## 支局長 からの手紙

新聞、テレビなどで日々報道される事件で近年目につくのが家族・親族間の殺人ではないでしょうか。しかも、動機が短絡的で希薄なケースが目立ちます。家族間、そして地域の人たちの心のきずなが弱くなっていく証しかなあ、と思うことが多い昨今です。

そうした中、檀家だけでなく、多くの人々に呼び掛けて本堂などを交流の場とする試みを続けている高松市のお寺があります。一つは同市香川町大野の称讃寺(087・885・2012)。02(平成14)年に国際日本文化研究センター(日文研)所長の宗教学者、山折哲雄さんを招いて本堂で講演会を開いたのを皮切りに、毎年春、秋、冬の3回、講演会を開催しています。

同寺の瑞田信弘住職(52)は「6年前に門徒の方々の寄付をいただいて本堂を新築しました。それまでと同様に本堂をほとんど使用しないのではもったいないと思ったのが、講演会を企画した発端です」と言います。京都の日文研まで足を延ばして山折さんの講演を聴いて感銘。高松での講演会を持ちかけ、実現したそうです。

## 開かれたお寺

「かつてお寺は地域の文化の発祥の地であり、拠点でした。これからも県内に広く呼び掛け、時代や人生をじっくりと考えるのに参考になる講演会を開いていきます」と瑞田住職。今秋には恒例の山折さんの講演会を予定しているそうです。

大山住職は「一般的なお寺は敷居が高いと思われがちです。それではいけないと考え、お寺を多くの人たちの交歓の場として利用していただくようにしました。年代を超えてアットホームに交流してもらっています」と。「寺とも」とは、寺で心の交流をしてもらい友達の輪を広げていたいただきたい、との思いを込めたネーミングだそうです。

もう一つは同市番町2の徳成寺(087・821・6348)。昨年1月から毎月、だれでも参加し交流できる「寺ともサーブスデー」を境内や本堂で開いています。

同寺の大山健児住職(40)と、妻、

【高松支局長・久門たつお】